

事業所における自己評価総括表(公表)

COMPASS 発達支援センター古賀



○事業所名	COMPASS発達支援センター古賀		
○保護者評価実施期間	令和7年 9月 12日		～ 令和7年 9月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	令和7年 9月 5日		～ 令和7年 9月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 9月 18日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	COMPASSでは全国に事業を展開しており、系列事業所との連携があります。各担当者が会議や勉強会をおこなっており、事例検討なども含めて多様な視点からの意見を取り入れて、計画書や日々の療育に取り入れております。	各担当毎に事業部内で担当グループが形成されており、担当グループ主体での会議や勉強会が実施されています。複数の地域に事業所があるので、不明な点などは指定権者に確認をし、法令に沿った事業所運営をおこなっております。	ご利用者様が楽しみながら通っていただける事業所、成長を感じられる事業所、安心して通っていただける事業所を常に考えながら、決められたルールを遵守して取り組んでまいります。
2	発達支援の専門性をさらに高めるために、言語、感覚、行動などの領域別支援の体系化や、発達段階に応じたプログラムの整備を進めております。職員間でのケース共有や、動画、資料を進めております。また、保護者様がご家庭で実施しやすい支援方法の提案やフィードバック体制の充実を図っております。	ご利用者様一人ひとりの成功体験を積み重ねられるよう、活動内容や難易度を細かく調整しております。「できたこと」に焦点を当てた肯定的な声掛けを意識し、自己肯定感を育む支援を行っております。チーム内で支援の振り返りミーティングを定期的に行い、児童の変化や課題を共有しております。他職種や保護者様からのご意見を積極的に取り入れ、柔軟な支援計画の見直しを行っております。	日々の支援を通して得た事例を蓄積し、全職員で共有できる仕組みを整えてまいります。支援内容を振り返り、より効果的な支援方法を検討するミーティングを実施してまいります。今後も保護者様への情報共有を充実させ、ご家庭と事業所が一体となった支援の実現を目指してまいります。
3	支援の成果を客観的に把握できるよう、日々の支援記録や職員間の振り返りを活用し、データに基づく検討を定期的に行っております。支援計画の見直しや指導内容の改善に反映させることで、より実証的で再現性のある支援体制の確立に努めております。	日々の記録をもとに、ご利用者様の小さな変化や成長を職員間で共有し、支援内容に反映させております。週ごとの振り返り時間を設け、支援の意図や効果を言語化することで、支援の質の向上に努めております。ご利用者様の反応や表情、集中度などの行動観察を重視し定性的な変化も記録に残すよう意識しております。	支援記録の分析をもとに、児童ごとの変化を可視化し、次の支援方針に反映させるよう努めてまいります。研修や勉強会で学んだ内容を実践に結びつけ、職員全員の支援スキルを向上させるよう意識してまいります。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	支援の成果やご利用者様の成長を、より分かりやすくご家庭や関係機関と共有できる仕組みづくりを進めております。今後も記録や振り返りの方法を工夫しながら、保護者様が日々のご利用者様の変化を実感できるような支援体制を整えてまいります。	職員ごとの記録方法や視点の違いが課題となっておりますが、共通フォーマットや共有体制を整えることで改善を進めております。今後も支援内容をわかりやすく可視化し、保護者様や関係機関と共有できる体制を充実させてまいります。	支援記録の共有方法の明確化を進め、職員間での共通理解を深めてまいります。また、日々の支援を振り返る時間を確保し、ご利用者様の成長を全職員で把握、共有できる仕組みを整えることで、より一貫性のある支援を実現してまいります。
2	ご家庭との関りを大切にし、支援開始時だけでなく、長期的に安心してご相談いただける関係づくりを意識しております。今後も定期的な面談やご家庭でのアドバイスを通して、共にご利用者様の成長を支えていける体制を充実させてまいります。	保護者様の生活リズムや勤務形態が多様化しており、面談やご連絡の時間を十分に確保することが難しい場合があります。そのため、より柔軟な方法でご家庭との連携を図る必要があります。今後も、保護者様の皆様の状況に寄り添いながら、無理のない形で情報共有や相談ができる環境づくりを進めてまいります。	多様なご家庭の環境や働き方に合わせ、連絡手段や相談機会の柔軟な設定が求められます。送迎時の短時間でのやり取りに加え、定期面談やオンラインツールを活用し、保護者様が安心して相談できる環境を整えてまいります。
3	園や学校、療育センターなどの関係機関との連携をより円滑に行うため、情報共有の仕組みや連絡体制の整備を進めております。今後も、地域全体でご利用者様を支えるネットワークの一員として、信頼と協働を大切にしながら支援の質の向上に努めてまいります。	関係機関によって情報共有の方法が異なることが要因となっておりますが、より円滑な連携を図るための工夫を進めております。今後も地域全体でご利用者様を支えるネットワークに努めてまいります。	関係機関との情報共有方法を統一し、連絡の流れを明確にしていくことが重要です。定期的な情報交換や合同検討の機会を設けるなど相互理解を深めながら、地域全体でご利用者様を支える連携体制の充実を図ってまいります。

